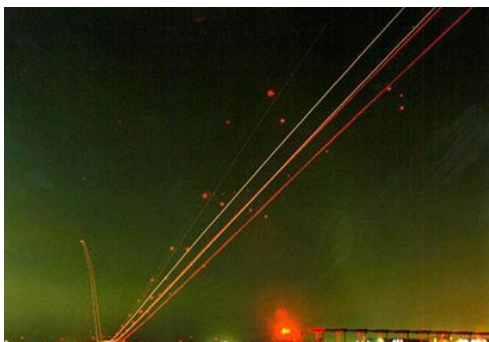


(1) 空母艦載機の騒音問題

1973年（昭和48年）10月に米空母ミッドウェーが横須賀に入港して以降、その艦載機が厚木基地に飛来し、厚木基地を拠点として訓練などの飛行を繰り返したことから、厚木基地周辺では激しい航空機騒音が住民にもたらされるようになりました。空母ミッドウェーの横須賀入港当初は、空母艦載機は人口密集地にある厚木基地を避け、他の基地で夜間訓練を行っていたため、訓練終了後の深夜に厚木基地に帰投することが多く、この騒音が問題となっていました。加えて、1982年（昭和57年）2月からは、厚木基地でもこの夜間訓練が行われるようになり、厚木基地周辺住民は昼夜を問わず激しい騒音に晒されることとなりました。中でも、空母が出港する際に行われる夜間連続離着陸訓練（NLP: Night Landing Practice）は、その訓練の特殊性から比類のない激しい騒音を発生させ、家族の団らん、睡眠などの家庭生活の主要な時間帯に集中的かつ長時間にわたって行われることから、厚木基地周辺住民に計り知れない苦痛を与えました。また、1988年（昭和63年）からは、厚木基地の一般開放日において空母艦載機のデモンストレーションフライトが行われるようになり、リハーサル期間も含め、多数の航空機による編隊飛行や市内住宅地上空での急旋回、急上昇、急降下の繰り返しなどが行われ、市民に多大な騒音被害や墜落等の恐怖を与えていました。1993年（平成5年）には、厚木基地から南へ約1,200 kmの小笠原諸島にある硫黄島において代替訓練施設が完成し米軍に提供されたことから、空母艦載機の着陸訓練（FCLP: Field Carrier Landing Practice）のほとんどが硫黄島で実施されるようになりました。しかしその後も、厚木基地は硫黄島の予備施設の一つとして指定され、天候等の事情により厚木基地でFCLPが行われ、空母の出港後には厚木基地周辺で空母艦載機による深夜の飛行もみられるなど、市民に甚大な騒音被害が及びました。2000年（平成12年）9月には、厚木基地での度重なるNLP実施などもあり、大和市が米海軍厚木航空施設との文化的交流の中断を発表すると、在日米海軍は2001年（平成13年）4月、この年のデモンストレーションフライトの中止を発表し、その後、厚木基地周辺住民が展示飛行の実施を望まないなら将来も行わないとの方向性を示しました。このように、厚木基地を拠点とする空母艦載機の甚大な騒音は、市民の日常生活に多大な影響を及ぼし、大きな社会問題となっていました。



【厚木基地におけるNLP】



【大和市上空でのデモンストレーションフライト】